

## 季節労働者の雇用と暮らしを守るために 網走地区本部との意見交換会



季節労働者支援センターは、各地区の実態、現場からの悩み、意見を聞いて、道季労運動の糧にすべき、昨年から道季労各地区本部の役員、各支部役員との意見交換会を開催しています。

渡島地区本部、札幌地区本部、胆振地区本部に続いて、2018年4月17日、北見市・労働会館において網走地区本部（網走地区支援センター）との意見交換会を開催し、道支援センター運営委員会より山田事務局次長（連合北海道組織労働局長）、新野事務局次長（道季労事務局長）、坪田事務局次長（連合北海道総合政策局長）、網走地区支援センター、網走地区本部の役員が参加しました。

冒頭、山田事務局次長の挨拶のあと、新野事務局次長より、いままでの道季労運動の経過を説明し、今後の課題について、とりわけ、いまの北海道の建設労働者の深刻な人出不足を解消し、北海道の建設業の健全なる発展のためにも季節労働者の冬場の安定した生活と雇用を確保するうえに、「冬期技能講習制度」に代わる新たな制度が必要であることなど、退職金共済制度の問題、短期就労事業、公契約条例制定の取組みなどを提起しました。坪田事務局次長からは、連合北海道が季節労働者の課題で取り組んでいる政策要求の状況について説明がなされました。

網走地区本部からは、現在、網走管内において企業組合が存在し、事業を継続しているのは、北見市三楽企業組合のみとなり、冬場の福祉除雪等の事業により、組合員を確保している状況が報告されて、厳しい状況のなかでも、組織を維持し、季節労働者の雇用と暮らしを守るために奮闘しています。

以上、地域の悩みも含めて建設的かつ真剣な意見が出されて意見交換会を終えています。